

総務グループのアップ UP 通信 7月号 Vol.93



今や誰でも知るところとなった“令和”の由来の「万葉集」。書店に行くと関連本が平積みされていますね。学生時代にみなさん勉強しているはずですが・・・覚えていますか？今月は「万葉集」をテーマにお送りいたします。



「万葉集」とは

飛鳥朝から奈良朝まで5世紀前半から8世紀半ばまでのおよそ300年間に詠われた日本の歌の総結集です。全20巻、歌数4516首もあり、その作者は天皇、皇族から庶民まで広汎にわたることが特徴です。“和歌の前では身分は問わない”というこの姿勢は世界的にみても特異なもので、何より、インターネットもない時代に、300年もの長い期間、身分を問わず多くの人の歌を集め続けた人たちがいたことがすごいですよね。

時代背景も、大化の改新、壬申の乱、律令制定、藤原京・平城京への遷都、遣唐使、大仏建立などなど、めまぐるしい変化を映しています。

大宰府 ～多くの歌が大宰府で詠まれました

「天平二年（略）」

とき ういはる れいげつ きよ かぜやはら うめ かがみまえ こな ひら らん はいご かおり
時に、初春の令月にして、気淑く風和み、梅は鏡前の粉を披き、蘭は珮後の香を薫す。

(略) 何を以ちてか情をのべむ。詩に落梅の篇をしるせり。古と今とそれ何ぞ異ならむ。…」

上記は「令和」の典拠となった歌の一説で、大伴旅人が自邸で開いた“梅花の宴”に合わせて作られたそうです。この歌ゆかりの坂本八幡宮（福岡圏大宰府市）には5月以降来訪者が増え、経済効果が約10億円に上ったとか。他にも大宰府で詠われた歌は320首もあるといわれ、特に、大伴旅人と山上憶良が有名です。

山上憶良の「貧窮問答歌」という生活歌は同時代人の中でも珍しかったのですが、長く継承されませんでした。また、有名な「あをによし奈良のみやこは咲く花のにほらがごとく今盛りなり」は奈良で歌われたのではなく、大宰府で故郷を想って作られた歌だそうです。

万葉集の旅 草枕。。。

大和・春過ぎて 夏来るらし 白たへの 衣乾したり 天の香具山(持統天皇)
東国・田兒の浦ゆ うち出でて見れば 真白にぞ 不尽の高嶺に 雪は降りける(山部赤人)
近江・淡海の家 夕波千鳥 汝が鳴けば 心もしのに 古思ほゆ(柿本人麿)
紀州・若の浦に 潮満ち来れば 湯をなみ 葦辺をさして 鶴鳴き渡る(山部赤人)
筑紫・春されば まつ咲く宿の 梅の花 独り見つつや 春日暮さむ(山上憶良)
越中・物部の 八十少女らが 汲みまがふ 寺井の上の 堅香子の花(大伴家持)



万葉集時代の貴族の生活

1300年も昔の飛鳥～奈良時代ですが、その貴族達の生活はおどろくほど現代に似ています。

卓子というテーブルで事務作業や食事を行い、椅子やベッドも使っていました。部屋は帳というカーテンで仕切られ、有名な“すだれ動かし(注1)”のすだれも竹製ではなくビーズなどを使った玉簾とよばれるもの。仏教は伝来していましたが、太古以来の肉食もありましたし、チーズやバター、クリームもありました。また、男性の服装は詰襟の上着にズボンをはき、腰にしめたバンドにはサーベルのような太刀。女性は筒袖で丈の短いブラウスに似た上着にフレアーなロングスカートでショールやストールもあったそうです。なんとなく想像出来ますよね！

(注1) 君待つと わが恋ひをれば わが屋戸の
すだれ動かし 秋の風吹く(額田王)



七夕伝説

年に1度、7月7日の夜だけに会うことができるという織姫と彦星の七夕伝説。飛鳥朝の持統天皇のころ遣唐使船によって古代中国から伝えられ、万葉集にもおさめられています。ロマンティックでめずらしいお話に当時の人はバレンタインデーのように喜んだかもしれませんね。

「彦星と織女とこよひ逢ふ天の河門に波立つなゆめ」



大伴家持(おおともの やかもち)

万葉集の編集者とされている大伴家持は、大伴旅人の跡取りとして学問・教養を早くからしっかり学んでいました。29歳の時に越中守として現在の富山県高岡市へ赴任し、5年間滞在しました。その頃、仲間を集っては宴をひらき歌を詠んでいたため、越中歌壇と言われました。万葉集4516首のうち、大伴家持の歌は473首、うち220首が越中で詠まれています。万葉集の最後の歌は、この大伴家持が因幡守のときに詠んだ歌です。

「新しき年のはじめの初春の今日降る雪のいや重け吉事」





今月のお題

メールの誤送信にご注意

メールは、基本的には一度送ってしまったら最後、送信した内容を取り消すことはできません。そのため、送信の際には、細心の注意を払う必要があります。

しかし、1日に何十通とメールを送る中で、1つ1つのメールを確実に送信することは容易ではありません。今回は、メール誤送信の防ぎ方と対処方法をご紹介しますと思います。

よくある誤送信

主なメール誤送信の例を紹介いたします。みなさんも心当たりがありますか…？

宛先のミス

- メールアドレスを手打ちしたらスペルが違っていた。
- 自動補完(オートコンプリート)機能で、間違ったアドレスが入力されたまま送信していた。
- アドレス帳から、別人のアドレスを選択していた。
- 複数人に送る際に、受信側で、送信先全員のアドレスが丸見え状態になっていた。

添付ファイルミス

- 本来送るべきファイルとは別のファイルを添付して送信した。
- 添付ファイルの暗号化処理を忘れていた。

文面ミス

- 相手の社名や名前を間違えていた。
- メールと件名の内容が一致していない状態で送信した。
- メール of 誤字脱字に気付かず送信した。



ちょっとしたミスで済むケースもありますが、相手の印象を悪くするだけでなく、信頼を損ねる可能性や、場合によっては取引停止や情報漏えいによる損害賠償請求といった事態に発展する可能性もあります。改めて注意したいですね。

すぐのできる送信先の間違いを防ぐ方法

今日は社内で利用の多い Thunderbird での、送信先の間違いを防ぐ方法をご紹介します。

送信先の確認は、「Confirm-Address」アドオンで対応

※アドオンは、Thunderbird に新しい機能を追加したりできる拡張機能です。

手順

- ① Thunderbird の[ツール]-[アドオン]をクリック。
- ② アドオンマネージャ開くので右上の検索フォームに「Confirm-Address」と入力して検索をかけ、インストールをする。
- ③ これで送信時に、[送信]ボタンをクリックすると「宛先メールアドレスの確認」ダイアログが表示されるようになります。

ドメインの設定を追加しておくことで、社内メールと社外メールを分けて表示することができます。

- ① Thunderbird の[ツール]-[アドオンのオプション]-[Confirm-Address]をクリック。
- ② [追加]ボタンを押して、ワイドソフトデザインのドメインを追加する。※@より後を入力する。
- ③ [OK ボタン]を押す。

その他、自ドメイン宛のメールには確認ダイアログを表示しないなどの設定も可能です。右図を参照ください。

